

外島裕教授定年退職記念特集

「経営組織における人間行動と意思決定の諸相」

本学部経営学科外島裕教授は、平成2年3月に定年退職を迎えられることになりました。日本大学商学部経営学科では経営心理学、人的資源管理論、キャリアデザイン特別講座などを、また、商学研究科経営学専攻ではミクロ組織行動論の講義を長年、担当してこられました。商学部にて奉職されてから、23年間、教育ならびに研究の両面に大いに貢献して頂きました。とくに、研究実績をうまく大学教育に取り込んでいるのが、外島先生の研究・教育スタイルの大きな特徴であります。つまり、先生の教育への情熱を支えてきた原動力がまさに研究によって生み出されてきたといっても過言ではありません。

教育の原動力ともなった先生の研究領域は、産業・組織心理学です。もともと産業・組織心理学は、伝統的に①人事心理学、②産業社会心理学、③作業心理学、④市場心理学などの4つの領域から構成されておりましたが、近年では、組織行動論の分野までと、その学問領域は広がっております。現実のビジネスの複雑性、多様性がますます中で、産業・組織心理学はますますそのカバーする領域を広げ、学問としての幅と深みを増している学際的な研究分野であることは間違いありません。

そこで本特集号は、外島裕先生の教育・研究の貢献に報いるため、産業・組織心理学に多角的な専門領域からアプローチをすることを意図して組まれたものです。事実、本特集号は、組織心理学をコアな専門領域とする先生方を中心として、心理学のみならずマーケティング、組織論、経営史、戦略論、非営利組織、法学、論理学など、多様な専門領域の先生方から投稿を頂きました。また、研究対象に対する方法論でも、アンケートなどの定量的分析アプローチから事例研究などの定性分析、さらには理論研究の哲学的なアプローチまでと多様性にとんでおります。学問領域だけではなく、研究課題、研究対象、研究方法まで多様化した論文が掲載されており、まさに異分野間の知的な触発や融合を促進するような特集になっております。

もちろんテーマをご覧頂ければ、必ずしも産業・組織心理学にダイレクトに関連している論文ばかりではありません。しかし、知の融合を進める一つの重要なファクターは、異なる専門領域の研究者が、その専門領域の違いを超え、互いの論理展開を理解することによって進められると考えられます。本特集号が、外島先生が目指しておられた異分野間の知識融合に少しでも貢献できれば幸いです。

日本大学商学部教授 高井 透